

三菱UFJフィナンシャル・グループ

2008年度第3四半期決算の概要
(2008年4月～2008年12月)

2009年2月6日

本書には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(以下「当社」という)およびそのグループ会社(以下「当グループ」という)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポートをご参照下さい。

なお、本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本書に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は 何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本書の計数は日本会計基準ベースの数値を使用しています。

<本資料における計数の定義>

連結	：	三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
単体合算	：	三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

● 損益サマリー	3
● B/Sサマリー	4
● 貸出金・預金	5
● 貸出資産の状況	6
● 保有有価証券の状況	7
● 保有証券化商品等の状況	8
● 2008年度業績／配当金予想	9
● Appendix:証券化商品エクスポージャー	10

●業務粗利益

- 資金利益は海外貸出収益の増加、外貨調達コストの減少を主因に増加
- 役務取引等利益は市場環境の悪化により、投信・保険、証券手数料、不動産を中心に減少
- 証券化商品関連損失約▲1,790億円計上も、債券関係損益の増加等もあり、「特取+その他業務利益」はほぼ横這い

●経費

- 営業費は、統合関連費用による増加の一方、経費削減の進捗等もありほぼ横這い

●与信関係費用

- 国内外における取引先企業の業績悪化を反映した格付の見直しなどに伴い増加

●株式等関係損益

- 株価下落に伴う株式等償却約▲4,000億円により大幅な損失を計上

●四半期純利益

- 与信関係費用、株式等関係損益の悪化を主因に赤字計上

<連結P/L>

(単位:億円)

	07年1-3Q	08年1-3Q	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	25,599	24,928	▲670
2 うち資金利益	13,859	14,101	241
3 うち役務取引等利益	7,961	7,228	▲732
4 うち特定取引利益+その他業務利益	2,657	2,669	11
5 うち国債等債券関係損益	▲53	796	849
6 営業費	15,745	15,729	▲15
7 実質業務純益	9,854	9,198	▲655
8 臨時損益	▲3,317	▲8,362	▲5,044
9 うち株式等関係損益	369	▲3,263	▲3,632
10 経常利益	6,650	1,139	▲5,511
11 特別損益	▲329	▲32	296
12 法人税等+法人税等調整額	2,627	903	▲1,723
13 四半期純利益	3,146	▲420	▲3,567
14 与信関係費用総額*1	▲3,344	▲4,335	▲990
15 うち単体合算	▲1,867	▲2,916	▲1,048

*1 与信関係費用総額=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内)+偶発損失引当金戻入益(与信関連)(▲は費用)

<ご参考>

(単位:円)

16 1株当たり利益	30.01	▲4.36	▲34.37
17 連結ROE *2	6.55%	▲0.98%	▲7.53%

*2

(四半期純利益×4/3)-非転換型優先株式年間配当相当額

{(期首連結株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定)

+ (第3四半期末連結株主資本合計-第3四半期末発行済非転換型優先株式数×払込金額

+ 第3四半期末為替換算調整勘定)}÷2

×100

●貸出金

- 国内法人貸出の増加やアコム新規連結等により増加

●有価証券

- 国債、外国債券の増加により大幅な増加

●預金

- 為替要因等もあり海外店預金を中心に減少
個人預金は引続き増勢基調

●開示債権

- 開示債権の減少、総与信の増加により、
開示債権比率は1.17%に低下

●その他有価証券評価損益

- 株式含み益減少により評価益はマイナスに

<連結B/S>

(単位: 億円)

	08年9月末	08年12月末	増減
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	906,762 [904,451]	933,434 [931,250]	26,671 [26,798]
2 うち国内法人貸出*1*2	485,549	508,082	22,532
3 うち住宅ローン*1	172,350	172,256	▲93
4 うち海外貸出*3	204,737	199,180	▲5,557
5 有価証券(銀行勘定)	386,713	455,092	68,378
6 預金	1,197,983	1,181,281	▲16,702
7 うち個人預金(国内店)	626,722	635,703	8,980
8 国内預貸金利回り差 (単体合算)	(08年上期) 1.44%	(08年1-3Q) 1.44%	0.00%
9 金融再生法開示債権*1	12,182	11,234	▲948
10 開示債権比率*1	1.28%	1.17%	▲0.11%
11 その他有価証券評価損益	2	▲6,821	▲6,824

*1 単体合算+信託勘定

*2 傘下銀行から持株会社宛の貸出金を除く

*3 海外支店+ユニオン・バンク・コーポレーション+BTMU(中国)

貸出金・預金

【連結】



●貸出金残高は93.3兆円に増加
(08/9比+2.6兆円)

<08/9比増減の主要因>

- 国内法人貸出 +2.2兆円
- 海外貸出*1 ▲0.5兆円
- アコム連結 +1.3兆円

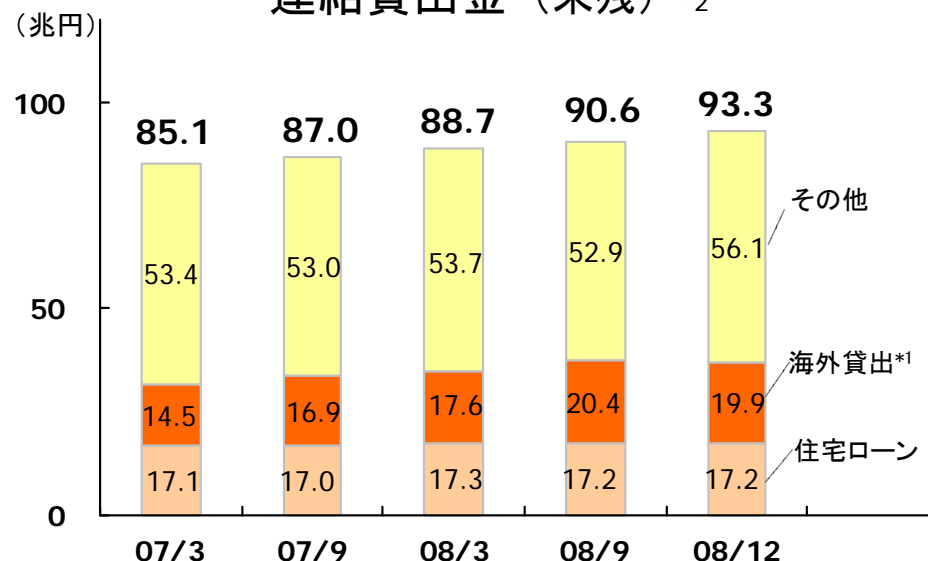
*1 海外支店+ユニオン・バンカール・コーポレーション+BTMU（中国）

●連結預金残高118.1兆円
(08/9比▲1.6兆円)

<08/9比増減の主要因>

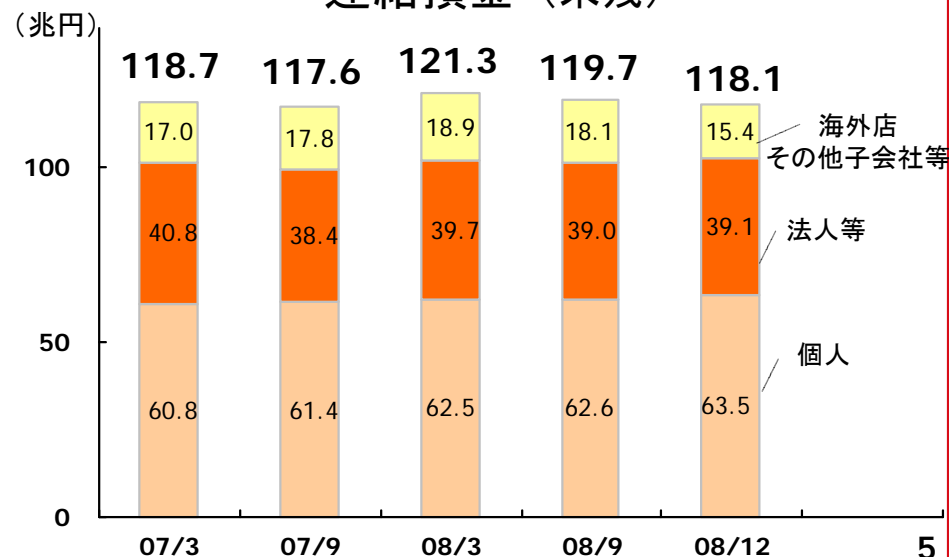
- 個人預金 +0.8兆円
- 法人等預金 +0.1兆円
- 海外店預金 ▲2.3兆円

連結貸出金（末残）*2



*2 銀行勘定+信託勘定

連結預金（末残）



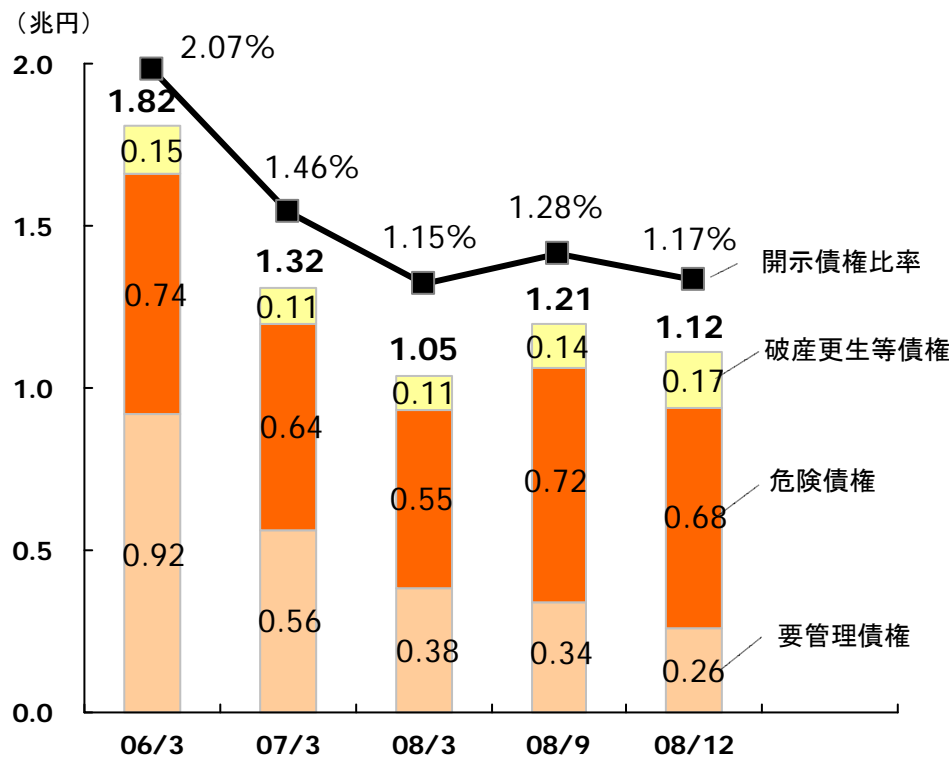
貸出資産の状況

【連結・単体合算】

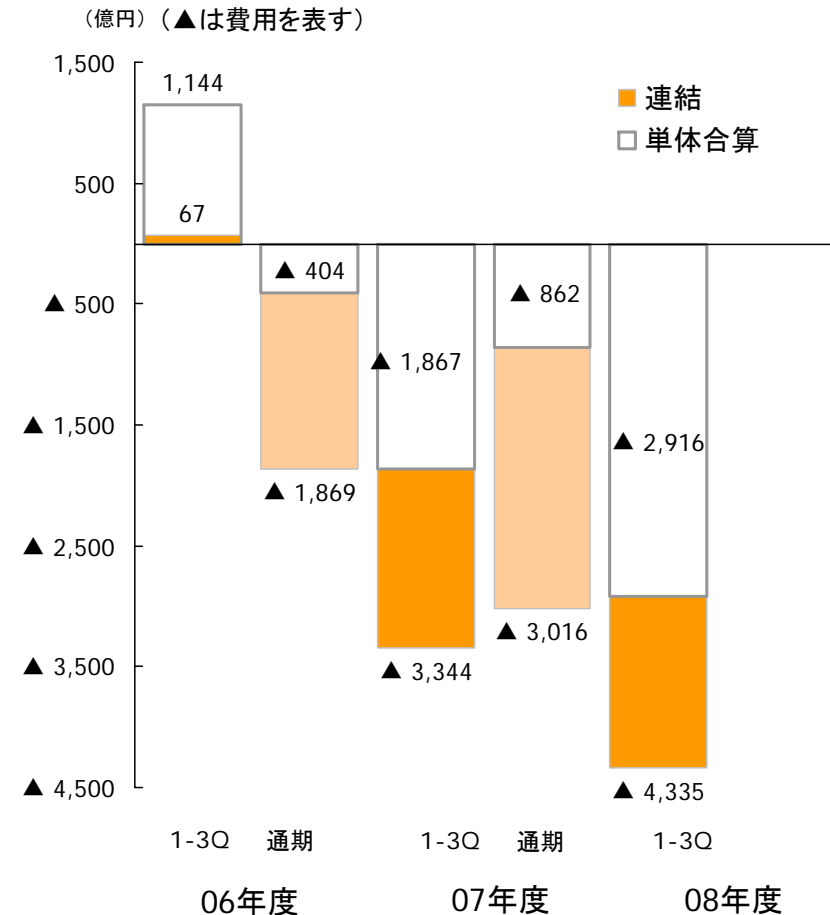


- 危険債権及び要管理債権の減少により、開示債権比率は08/9末比0.11ポイント低下の1.17%
- 与信関係費用は単体合算で2,916億円、連結では4,335億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(単体合算)



与信関係費用



保有有価証券の状況

【連結】



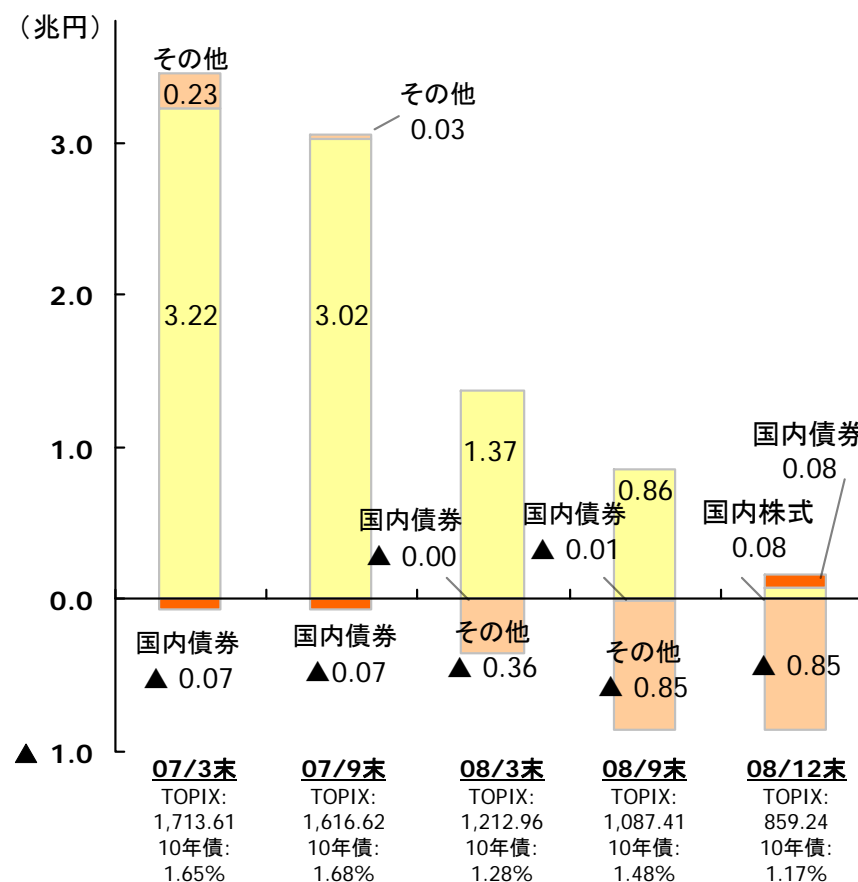
- 国内株式の評価益減少により、その他有価証券全体の評価損益は08/9末比約0.68兆円減少

その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	12月末 残高	評価損益	
			08/9末比増減
合計	400,028	▲6,821	▲6,824
国内株式	40,485	887	▲7,718
国内債券	230,231	828	932
その他	129,311	▲8,538	▲38
外国株式	1,000	▲325	▲595
外国債券	93,325	169	1,197
その他	34,985	▲8,382	▲639

その他有価証券評価損益の推移



保有証券化商品等の状況

【連結】



- 証券化関連商品の残高は約2.62兆円(08/9末比▲0.5兆円)

保有証券化商品の概要(08/12末)

(1) 残高及び評価損益 (億円)

	残高	評価損益		評価 損益率	
		9月末比	9月末比		
1 RMBS	3,600	▲ 1,600	▲ 850	200	▲23.6%
2 うちサブプライム	830	▲ 570	▲ 170	210	▲20.6%
3 CMBS	340	▲ 10	▲ 20	▲10	▲4.5%
4 CLO	18,010	▲2,090	▲ 2,500	890	▲13.9%
5 その他(カード等)	3,960	▲1,160	▲ 810	▲320	▲20.4%
6 CDO	260	▲ 110	▲ 70	0	▲26.2%
7 SIV	0	▲ 30	0	0	0.0%
8 合計	26,180	▲ 5,010	▲ 4,240	770	▲16.2%

(2) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	無格付
9 RMBS	3,040	230	230	20	70	-
10 うちサブプライム	670	90	10	20	50	-
11 CMBS	200	90	40	10	-	-
12 CLO	15,080	950	1,690	240	40	10
13 その他(カード等)	2,340	320	370	890	20	20
14 CDO	120	70	-	10	70	-
15 うちサブプライム	-	0	-	-	-	-
16 SIV	-	-	-	-	0	-
17 合計	20,790	1,660	2,330	1,170	200	30
18 比率	79%	6%	9%	4%	1%	0%

証券化商品

- 証券化商品投資の残高は、償還・売却に加え、為替(円高)による影響もあり、2.62兆円に減少(08/9末比▲5,010億円)
- 同評価損益は、▲4,240億円(08/9末比770億円)、評価損益率は▲16.2%(08/9末比0.1%ポイント悪化)
- 当第3四半期(4~12月)の損益(P/L)への影響額は、価格下落に伴う減損および売却損を中心に▲1,790億円の損失
(うち10~12期は▲1,380億円〔売却▲190億円、減損▲1,190億円〕)
- AAA格は約79%(08/9末 81%)

注1 米GSE等が組成・保証するモーゲージ債・住宅金融支援機構債等の本邦住宅ローン証券化商品、投資信託ファンドで保有している証券化商品は含まず。残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)

注2 企業向けローン証券化商品(CLO)は、当第3四半期決算より評価の精度を高めるため、その一部につき自社における合理的な見積りに基づく合理的に算定された価格により評価
上記の時価算定方法の一部変更による影響額は以下の通り
・08年12月末残高が約440億円増加
・08年12月末評価損が約2,060億円減少
尚、当第3四半期における損益への影響額は約+440億円

2008年度業績／配当金予想

【連結・単体】



【業績予想】

〔連結〕

	第3四半期実績	2008年度通期 (予想)
1 連結経常収益	43,470億円	59,000億円
2 連結経常利益	1,139億円	3,500億円
3 連結当期純利益	▲420億円	500億円

【配当金予想】

	中間配当金	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)
1 普通株式1株当たり 配当金	7円	7円	14円

〔三菱東京UFJ銀行〕

	第3四半期実績	2008年度通期 (予想)
(連結)		
1 経常利益	▲408億円	1,450億円
2 当期純利益	▲209億円	250億円
(単体)		
3 実質業務純益	5,201億円	7,650億円
4 経常利益	▲1,748億円	▲200億円
5 当期純利益	▲2,147億円	▲1,650億円

〔三菱UFJ信託銀行〕

	第3四半期実績	2008年度通期 (予想)
(連結)		
1 経常利益	612億円	750億円
2 当期純利益	301億円	300億円
(単体)		
3 実質業務純益	1,181億円	1,350億円
4 経常利益	589億円	700億円
5 当期純利益	329億円	300億円

■ご参考：

上記利益予想は、2008年12月末の株価水準を前提としております。当社は保有株式の減損について四半期洗替法を採用しており、2008年度通期の減損処理額は、2008年度末における株価により決定されます。したがって、上記予想数値は株価水準等により大きく変動する可能性があります。

Appendix

Quality for You 
MUFG

証券化商品エクスポージャー1:概要

【連結】



・開示対象: BTMU(含むユニオンバンク、泉州銀行)、MUTB、MUS
 ・商品範囲: 内部管理ベースの証券化商品。米国GSE等が組成・保証するモーゲージ債(別掲)、住宅金融支援機構債等の本邦住宅ローン証券化商品、投資信託等のファンドで保有している証券化商品等は含まず
 ・08年12月末時点。残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)。1ドル=91.03円にて換算

保有証券化商品の概要(08/12末)

(1) 残高及び評価損益

(億円)

	残高		評価損益		評価損益率	
		9月末比		9月末比		9月末比
1 証券化商品	26,180	▲ 5,010	▲ 4,240	770	▲16.2%	▲0.1%
2 RMBS	3,600	▲ 1,600	▲ 850	200	▲23.6%	▲3.4%
3 うちサブプライム	830	▲ 570	▲ 170	210	▲20.6%	6.6%
4 CMBS	340	▲ 10	▲ 20	▲ 10	▲4.5%	▲2.0%
5 CLO	18,010	▲ 2,090	▲ 2,500	890	▲13.9%	3.0%
6 その他(カード等)	3,960	▲ 1,160	▲ 810	▲ 320	▲20.4%	▲10.8%
7 CDO	260	▲ 110	▲ 70	0	▲26.2%	▲8.7%
8 SIV	0	▲ 30	0	0	0.0%	11.4%

(2) 地域別残高分布

(億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
1	18,650	6,720	50	750	26,180
2	2,980	610	-	-	3,600
3	830	-	-	-	830
4	10	30	0	290	340
5	11,750	6,010	-	260	18,010
6	3,790	-	10	170	3,960
7	130	60	30	40	260
8	0	-	-	-	0

(3) 格付別残高分布

(億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	無格付	合計
1 証券化商品	20,790	1,660	2,330	1,170	200	30	26,180
2 RMBS	3,040	230	230	20	70	-	3,600
3 うちサブプライム	670	90	10	20	50	-	830
4 CMBS	200	90	40	10	-	-	340
5 CLO	15,080	950	1,690	240	40	10	18,010
6 その他(カード等)	2,340	320	370	890	20	20	3,960
7 CDO	120	70	-	10	70	-	260
8 SIV	-	-	-	-	0	-	0

(4) 一次証券化商品比率

(億円)

	残高	比率
1 一次証券化商品	26,130	99.8%
2 二次証券化商品 ^{*1}	40	0.2%
3 合計	26,180	100.0%

^{*1} サブプライムABS CDO、シンセティックCDO
(スクエアド)、SIVが含まれる

RMBS（住宅ローン証券化商品）

(1) 原資産別残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
1 RMBS	3,600	▲ 850	▲23.6%	▲3.4%
2 サブプライム ^{*2}	830	▲ 170	▲20.6%	6.6%
3 サブプライム以外	2,760	▲ 680	▲24.5%	▲6.9%

^{*2} 他にサブプライム関連RMBSを含むファンドを保有
(サブプライム部分の残高80億円。ファンド全体の含み損▲220億円。証券化商品には含まれず)

(2) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	合計
1	2,980	610	-	3,600
2	830	-	-	830
3	2,150	610	-	2,760

(3) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB以下	合計
1 RMBS	3,040	230	230	90	3,600
2 サブプライム ^{*2}	670	90	10	70	830
3 サブプライム以外	2,380	150	220	20	2,760

(4) RMBSの組成年(ヴィンテージ)別残高分布 (億円)

	04年以前	05年	06年	07年	合計
1 RMBS	160	1,030	2,030	380	3,600
2 サブプライム ^{*2}	-	170	510	150	830
3 サブプライム以外	160	860	1,520	230	2,760

(5) サブプライムRMBSのヴィンテージ別評価損益 (億円)

	05年	06年	07年	合計
1 サブプライムRMBS ^{*3}	170	510	150	830
2 評価損益	▲ 40	▲ 110	▲ 20	▲ 170
3 評価損益率	▲23.8%	▲22.3%	▲11.1%	▲20.6%

^{*3} 組成時当初WAL(平均年限)は約3.5年

CMBS（商業用不動産証券化商品）

(1) 残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
CMBS	340	▲ 20	▲4.5%	▲2.0%

(2) 格付別残高分布 (億円)

AAA	AA	A	BBB以下	合計
200	90	40	10	340

(3) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
CMBS	10	30	0	290	340

CLO（企業向けローン証券化商品）

(1) 残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
1 CLO	18,010	▲ 2,500	▲13.9%	3.0%
2 バランスシート型	5,680	▲ 760	▲13.5%	▲4.9%
3 アービトラージ型	11,820	▲ 1,690	▲14.3%	7.1%

(2) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	無格付	合計
1	15,080	950	1,690	240	40	10	18,010
2	4,580	460	400	230	20	-	5,680
3	9,990	500	1,300	10	10	20	11,820

(3) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
1 CLO	11,750	6,010	-	260	18,010
2 バランスシート型	1,180	4,430	-	60	5,680
3 アービトラージ型	10,490	1,330	-	0	11,820

注 企業向けローン証券化商品(CLO)は、当第3四半期決算より評価の精度を高めるため、その一部につき自社における合理的な見積りに基づく合理的に算定された価格により評価
上記の時価算定方法の一部変更による影響額は以下の通り
・08年12月末残高が約440億円増加
・08年12月末評価損が約2,060億円減少
尚、当第3四半期における損益への影響額は約+440億円

債務担保証券(CDO)

(1) 残高・評価損益 (億円)

	残高	評価損益	評価損益率	9月末比
1 CDO	260	▲ 70	▲26.2%	▲8.7%
2 サブプライムABS CDO	0	0	0.0%	0.0%
3 シンセティックCDO ^{*4}	190	▲ 60	▲32.5%	▲10.9%
4 その他のCDO ^{*5}	70	▲ 10	▲10.1%	▲5.9%

(2) 格付別残高分布 (億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB以下	合計
1	120	70	-	10	70	260
2	-	0	-	-	-	0
3	50	70	-	10	60	190
4	70	-	-	-	10	70

*4 業種分散を図った投資適格企業の個々のCDSを参照資産としたCDO。価格の動きは主にCDSインデックスの価格動向に連動する

*5 リース債権、社債等を参照資産としたCDO

(3) 地域別残高分布 (億円)

	米州	欧州	アジア	日本	合計
1 CDO	130	60	30	40	260
2 サブプライムABS CDO	0	-	-	-	0
3 シンセティックCDO	80	40	30	30	190
4 その他のCDO	50	20	-	10	70

(4) 種類別残高 (億円)

	一次証券化商品	二次証券化商品	合計
1	220	40	260
2	-	0	0
3	140	40	190
4	70	-	70

証券化商品エクスポージャー4:モノライン、SPE他【連結】



モノライン(金融保証会社)関連の状況

・モノラインとの与信及びクレジットデリバティブ取引はない

SPE(特別目的事業体)の状況

【ABCP(Asset Backed CP)スポンサー業務】

- ・顧客資産の証券化を目的としたABCPの発行に関するスポンサー業務を実施
- ・ABCPコンデュイット(ABCPを発行する特別目的会社)の12月末買取資産残高は5.00兆円(うち海外分は1.50兆円)
- ・買取資産の種類は主として売掛債権であり、住宅ローン債権は含まれていない

証券化商品関連与信の状況

【証券化組成・販売用レバレッジドローン】

・レバレッジドローン証券化商品の組成・販売業務を行なっておらず、在庫ローンは保有せず

【LBOローン】

(1) LBOローンの残高 (億円)

	残高	9月末比	
		残高	増減
1 LBOローン(コミットメントベース)*6	5,500	▲ 410	
2 うちブック残高	4,750	▲ 440	

*6 一部リファイナンス後の残高を含む

(2) 地域別残高分布 (億円)

米州	欧州	アジア	日本	合計
680	1,480	390	2,940	5,500
480	1,300	350	2,620	4,750

米国GSE等関連の状況

(1) 残高・評価損益 (億円)

	残高		評価損益		評価損益率	
	残高	9月末比	評価損益	9月末比	評価損益率	9月末比
1 モーゲージ債*7	26,480	▲ 1,910	▲ 90	240	▲0.3%	0.8%
2 エージェンシー債*8	920	▲ 250	20	10	2.0%	1.6%

*7 ファニーメイ、フレディマック、ジニーメイが組成・保証

*8 上記3機関及びフェデラルホームローンバンク自らが発行